

神奈川県医師会中学２年生ピロリ菌検診と除菌治療のQ&A（平成30年度）

Q1. ピロリ菌に感染しているとどうなりますか？

A1. ピロリ菌は慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因となります。また、ピロリ菌に感染していると将来、自分の子供にピロリ菌を感染させる可能性があります。

Q2. ピロリ菌はどのようにして感染するのですか？

A2. 衛生状態の悪かった時代には、汚染された井戸水等、お水からの感染がありましたが、現代ではお父さん、お母さんから５歳までに感染すると考えられており、育児の際、ご両親にピロリ菌がいた場合は、子供への感染の確率が高まると考えられます。

Q3. どのくらいの確率でピロリ菌に感染しているのですか？

A3. ５歳児までの衛生環境を反映して、60歳以上の日本人は半数以上の人にピロリ菌が感染していると考えられますが、現在の中学生で感染している人は数パーセント以下と考えられます。

Q4. ピロリ菌に感染しているかどうか、どのように調べるのですか？

A4. 最初にご本人の負担の少ない尿検査を行います。この検査でピロリ菌感染が疑われれば、便の検査あるいは尿素呼気検査で精密検査を行います。

Q5. 検査費用はかかりますか？

A5. 検査から除菌、除菌後の判定検査まで、神奈川県医師会が負担しますので、個人負担はありません。除菌治療中に軽微な副反応（下痢、味覚障害等）が発生した際の、保険診療自己負担分のみご本人でご負担いただきます。

Q6. ピロリ菌がいたら、必ず除菌しなければいけないのですか？

A6. 確定検査でピロリ菌感染のある方で、ご本人、保護者の方が除菌を希望され、同意された方にのみ、除菌を行います。除菌するかどうかは自由です。

Q7. ピロリ菌の除菌はどこで、どのように行うのですか？

A7. 除菌は横須賀市医師会で定めた２次検査及び治療協力医療機関が担当します。抗生物質と胃酸を抑える薬を１週間飲んで除菌します。

Q8. 除菌治療すると、必ずピロリ菌は消えますか？ 再発はしませんか？

A8. 除菌の成功率は90%以上と考えられます。再発は、ほぼありません。

Q9. 除菌治療による副作用はありませんか？

A9. 一般的に使われている抗生物質と、胃潰瘍治療に使われている薬を同時に飲みますが、特殊な薬を飲むわけではないので、大きな副作用はないものと考えます。ただしひとりひとり治療担当医とよく相談し、担当医の判断の上で、治療を開始する必要があります。

Q10. 除菌が成功したかどのように調べるのですか？ 胃カメラはしなくてよいのですか？

A10. 除菌後、一定期間をおいて便の検査、あるいは尿素呼気検査を行い、ピロリ菌が消えていることを確かめます。胃カメラの必要はありません。

Q11. ピロリ菌検診に参加した人の情報が外部に漏れることはありませんか？

A11. あなたとご家族の個人情報が、絶対に漏れることが無いよう十分配慮します。得られた個人情報は、研究目的以外には使用しません。また、研究およびその発表に使用する際も、個人を特定できないように整理番号で匿名化して行います。

Q12. 研究結果、解析結果を知ることはできますか？

A12. 研究・解析結果の開示をご希望される方には、研究に同意されたご本人、保護者に限ってお知らせいたします。

Q13. いったん研究に参加して検査を受けた後で、途中で参加を取りやめることはできますか？

A13. いったん研究参加に同意した後でも、いつでもこれを撤回することができ、経費負担も発生しません。

Q14. 尿の提出はどのようにするのですか？

A14. 市内の指定医療機関にて採尿させていただきます。

指定医療機関であれば、どこで採尿いただいても構いません。生理中でも構いません。